

5千年もの壮大な軌跡を辿る 「古代アンデス文明展」開催!

南米大陸のペルー、ボリビアを中心とした、南北4000km、標高差4500mにおよぶ広大な地域で興った古代アンデス文明。2019年3月8日(金)から開催される「古代アンデス文明展」は、5千年もの長い歴史の中で生まれたカラル、チャピン、ナスカ、モチエ、ティワナク、ワリ、シカン、チムー、インカの9つの文化を軸に、アンデス文明を通史で紐解く展覧会。本展監修者の一人、国立科学博物館の副館長兼人類研究部長の篠田謙一さんに見どころを伺いました。



ANDES

— 古代アンデス文明の特徴を教えてください。

まず、新大陸で生まれた古代アンデス文明が我々旧大陸の文明と一番違うのは、それぞれが独立して発達してきたということ。例えば、日本は朝鮮半島や中国など近い場所の文化がある程度影響しています。旧大陸のメソポタミアで文字が発明されると、中国で文字ができる。そうすると旧大陸全体で文字文明が繋がると。ところが、その流れは新大陸には繋がっていかず、独自の文化を築いてきた。つまり、アンデス文明の特徴は何かというよりは、旧大陸の文明と比較した時に気づかされること(がもの)が多く多いということが第一にあります。独自の死生観や独特なフォルムの生活道具や装飾品など、そういうものが我々のインスピレーションをかき立ててくれる。人間つ

てこんなこともできるのかと、驚かされます。

— 東京では来場者総数が20万人を突破したとのこと。これほどまでに観る人を惹きつける理由はどこにあると思いますか?

ひとつには、やはりなかなか日本からすぐ見に行くことができない場所にある遺物ということが大きいと思います。一口にアンデス文明と言っても5千年もの文明の幅があり、その長い歴史の中で生み出された遺物はアンデス地域の各博物館に散らばって収蔵されているので、現地に行っても基本的に全部を見ることは難しい。それが本展では貴重なボリビアの遺物まで揃い、一堂に展示されます。各時代の文化を代表する一級品を集めているので、そういう意味でも注目度が高い展示なのではないでしょうか。



— 約2000点の貴重な遺物や資料が展示されますが、篠田先生が個人



的に思い入れのある展示物はありますか?

今回の展示品はほとんどが日本に初めて来るもの。なかでも、これまでほほ他国に文化遺物を出したことがないボリビアの遺物もあるので、ぜひ注目してください。

個人的な思い入れで言えば、やはり私自身が人類学者なので(第6章)のミイラ文化でしょうか。アンデスの死生観は非常に独特でおもしろいんです。文化の根っここの部分が見えてくる。それを一番端的に表しているのがミイラ思想。アンデス文明では死者をミイラにして、家の中で一緒に暮らしたり、たまにお墓から出して服を着替えさせたりしていたんです。不思議ですよ。

あとは、アンデス文明独特の意匠に注目するのもおもしろいと思います。モチエの土器などは日本ではあまり知られていないですが、ヨーロッパで非常に有名で、今回も優れた物が展示されます。アンデス文明は「文字がない」というのが一つの特徴ですが、そうすると、人間は何かを残したり伝えたりする時に、フォルムを用いるんですね。展示品の土器や織物は単純に美しいというだけ

Data 古代アンデス文明展

2019年3/8(金)～5/6(月・祝) ▶大分県立美術館 1階 展示室A

【時間】10:00～19:00 ※金・土曜は20:00まで(入場は閉館の30分前まで)

【料金】一般・大学生1,500円、前売・団体1,300円/高校生1,000円、前売・団体700円/小中学生600円 ※団体料金は20名以上 ※前売券販売期間12/3(月)～3/7(木) 【問】大分県立美術館 Tel:097-533-4500

主催:古代アンデス文明展大分展実行委員会、OBS大分放送、公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団・大分県立美術館
共催:大分合同新聞社
後援:外務省、ペルー大使館、ボリビア大使館、大分県、大分県教育委員会
協力:ペルー文化省、ボリビア文化観光省、クントゥル・ワン調査団、国立民族学博物館、東京大学総合研究博物館
企画制作:国立科学博物館、TBSテレビ

ではなく、おそらくコミュニケーションの道具に使われていたのだらうと思います。文字を持つ旧大陸の文明では思いもつかない、奇想天外な意匠に注目するのも楽しいかもしれないですね。

— 大分で本展をご覧になる来場者にメッセージをお願いします。

歴史の変遷、生活様式、個人的な意匠など、様々な角度からの楽しみ方ができる展覧会になっているので、肩肘張らずに観ていただき、何かひとつでもインスピレーションを感じるものを持ち帰ってもらえたら幸いです。私たちが暮らす日本とはまったく異なる地球の反対側の文明に触れるというのは、案外、今のグローバルな社会を理解することに繋がっているような気がします。